

竹の里だより

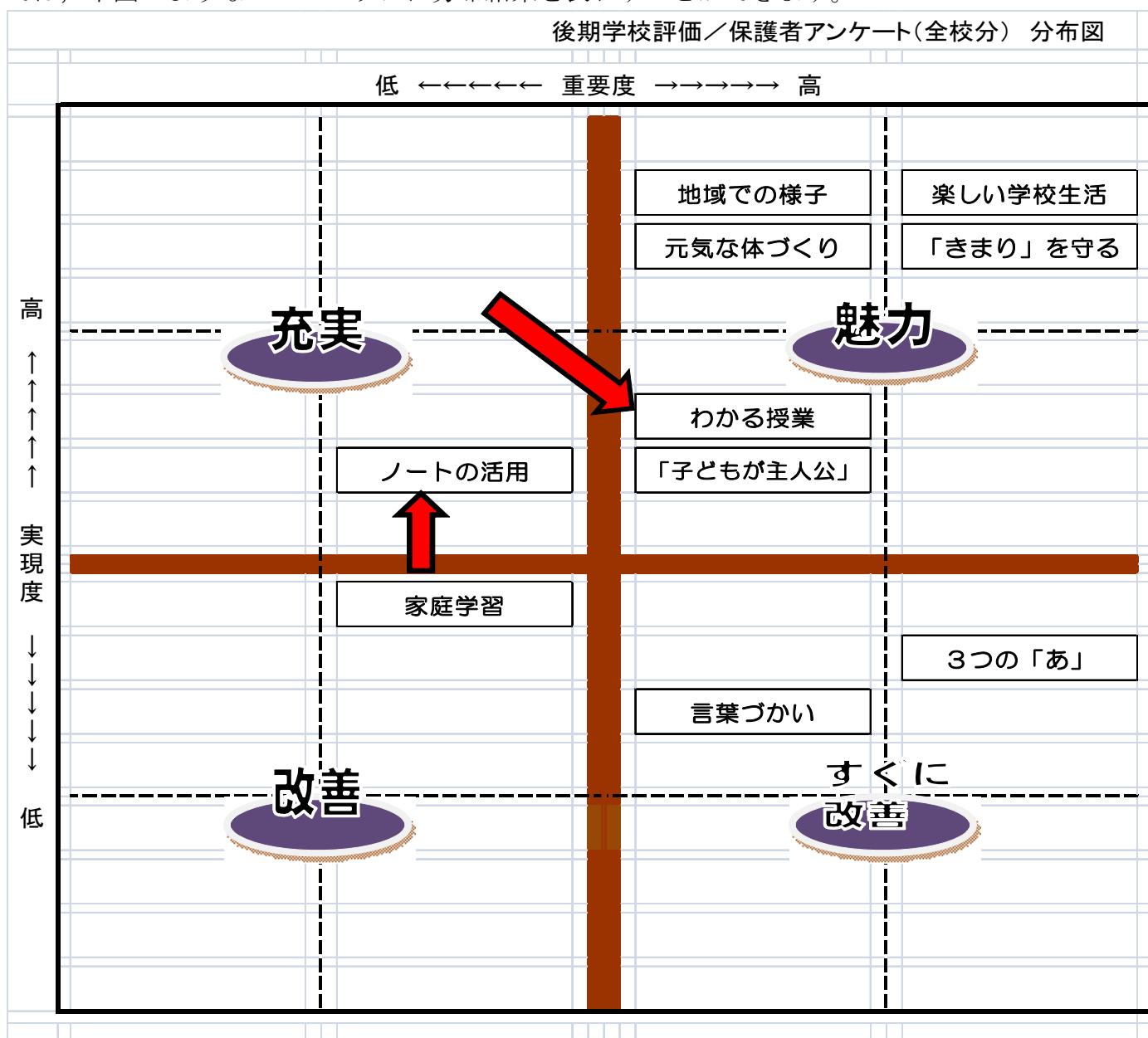


2月中旬にご協力いただきました学校評価アンケートは回収率82%でした。お忙しい中ご協力いただきましてありがとうございました。この回収率は昨年度と比べて数ポイント高い数値となりました。保護者の皆様方に高く評価いただいた点については気持ちを引き締めて、また厳しくご指摘いただいた点については早急に改善に着手し、よりよい学校づくりを目指していきます。また、これまで以上に各ご家庭に協力していただきたいことも明記しています。この結果を機に、今後とも学校と家庭が手を携えて「竹の里の子」の成長の歩みを力強く支えていけることを願っています。

今回の結果の概要と今後の取組について、以下のようにご報告いたします。

1 今回の学校評価（保護者アンケート）の概観

「重要度一実現度（ニーズ度）調査型アンケート」を導入して行った今回の保護者アンケートでは、下図のような4つのエリアに分布結果を表わすことができます。



「魅力」には、6項目が集まり、とりわけ「楽しい学校生活」が送れているかどうかについては、前期と同様に最も実現度の高い項目でした。これは、児童アンケート（保護者アンケートと同様のジャンルをさらに細分化した27項目で実施）でも同様の結果となりました。「クラスのともだちといっしょにべんきょうしたりあそんだりするのはたのしいですか」という質問項目に対して、89.6%が「そう思う」10.4%が「大体そう思う」と回答し、合計すると100%の児童が学校生活は楽しいと回答してくれました。子どもたちが1日の大半を過ごす学校が、とても居心地の良い場所であることは大変喜ばしいことです。また、特筆すべきは、前期に「充実」領域にあった「わかる授業」がこの領域にランクアップされたことです。本年度算数科を中心につながってきた授業研究が着実に成果を生み出していることに手ごたえを感じています。

さらに、「ノートの活用」について、保護者の皆様方がお子さんのノートを見て、どのように感じられているかという質問項目のポイントが前期に比べてかなりアップしています。これは、本年度より学校全体がノート指導に力を注ぎ、日々の授業の中で、各担任がノートづくりの具体的な手本となるように、板書（黒板に書く内容、書き方、まとめ方等）について日々研鑽を積んで指導に当たった成果が、少しずつ表れてきた結果ではないかと判断しています。それとともに、保護者の皆様方のご理解と家庭学習でのご協力のおかげで定着してきているのではないかと思われます。

この取組については今後も継続し、形式の浸透に満足することなく、内容の高まりを目標としてさらに充実を図っていきたいと考えています。

ノート指導についての児童アンケートでは、以下のような回答結果となりました。（数値は%）

質問項目	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
じぶんのノートには、べんきょうしたことやかんがえたことがていねいにかかっていますか。	39.5	46.5	12.3	1.7

この結果を見ると、大半の児童は授業中に丁寧なノートの記述を心がけているのですが、かんがえたことがていねいにという部分に自信のなさを認めているようです。授業中にノートに書くことは、学習の記録という側面と学習の資料という二つの側面を持ち合わせています。目標とするのは家庭学習等にも役立つ、「読み返してみたくなる」ノートです。竹の里小学校の教職員は、魅力あるノート指導を目指しています。私たちは、今後も大切にしたいノートづくりのポイントや、参考になるノート例を学級懇談会や学級だより等で積極的に紹介していきたいと思います。

ご家庭でも、子どものノートを見て、自分の考えたことや感想が書かれていれば、ぜひ褒めてあげてください。きっと、さらにがんばろうとする意欲につながるはずです。



続いて、規範意識に関する項目では、「地域での様子」「きまりを守る」ことも重要度・実現度が高く、学校のきまりを守ることはもちろんのこと、社会のルールを守ることもしっかりとできていることが見て取れます。学習規律や規範意識にかかわる行動面の児童アンケートの結果は以下の通りでした。（数値は%）

児童の実態調査項目	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
もちもののきまりを守っていますか。	64.3	27.0	7.0	1.7
チャイムをまもっていますか。	73.0	24.4	2.6	0.0
じゅぎょうちゅうに、ともだちのべんきょうのじやまになるようなことをしないよう気をつけていますか。	68.4	27.0	4.3	0.0
先生のおはなしやじじをいちどできくことができていますか。	41.7	52.8	4.6	0.9

「竹の里小のきまり」をまもっていますか。	47.7	44.0	8.3	0.0
人をたたいたり、けったりしないよう、気をつけていますか。	70.1	24.3	4.7	0.9
人をいじめたり、なかまはずれにしたり、おどしたりしないよう気をつけていますか。	84.4	12.8	1.8	0.9
人のものをとったり、かくしたりしてこまらせることがないよう気をつけていますか。	85.3	11.9	2.8	0.0
人にめいわくをかけるあそびやあぶないあそびをしないよう気をつけていますか。	80.7	16.5	2.8	0.0

前期と同様に先生の話や指示を一度でしっかりと聞くことには課題がありますが、それ以外の項目についてはほぼ満足できる結果となりました。今後も、学校と保護者・地域が強い連携のもと、さらに規範意識を身につけさせる徹底した取組を進めていきたいと思います。



2 次年度に向けての課題と改善点

① 3つの「あ」

年度当初にお示しした「竹の里小学校の教育」の中に、明るく元気なあいさつの「あ」、あとしまつの「あ」、ありがとうの「あ」…この3つの「あ」が息づく温かい学校をめざしてという目標を掲げました。これまで、それが定着するように指導してきました。児童のアンケートの結果は以下の通りでした。(数値は%)

児童の実態調査項目	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
(3つの「あ」) じぶんからすすんであいさつをしていますか。	57.8	33.0	9.2	0.0
(3つの「あ」) 「ありがとう」のきもちを、いつもことばでつたえていますか。	71.6	23.9	4.5	0.0
(3つの「あ」) あとからつかう人のことをかんがえて、あとしまつをきちんとしていますか。	65.1	32.1	2.8	0.0

アンケート結果から、(3つの「あ」)について児童自身も大切なことであると認識し、実践しようとしていることがわかります。年度当初は、入学・進級の喜びにあふれ、校門前での挨拶の声も元気よく響くほどでした。ところが、夏休み明けから運動会練習が始まったころの時期になると、挨拶の声もトーンダウンしてきました。次年度に向けて、取組の再徹底の必要性を痛感しています。

また、あとしまつの「あ」についても、後始末や後片付けが苦手な子が少なからず見受けられるようになります。(例えば、学校ではトイレのスリッパを揃える。机やロッカーの中を整理しておくなど)このことは、みんなが気持ちよく学校生活を送るために大切なことです。学校では、次年度も引き続き、教職員が同じ指導姿勢に立って、習慣化できるまで指導し続ける必要があると感じています。学校では、この点を繰り返し粘り強く指導していくとともに、児童自らが気づき、自分からすすんで行うことができるような指導の工夫を図っていきたいと思います。

② 言葉づかい

前期に比べて数ポイントアップしたものの、依然として実現度が最も低い内容項目として上がってきました。「言葉づかい」は人間関係のスキルに関わってきます。「挨拶」を指導する学校は非常に多いのですが、「丁寧な言葉遣い」を指導する学校は少ないといわれています。京都市がキャリア教育の一環として取り組んでいるスクーデントシティ学習(仮想の街での職業体験)では、徹底して「丁寧な言葉遣い」を指導しています。この街では、児童といえども容赦なく厳しい指導がなされています。この学習から、将来大人として、また自立した職業人として学ぶこ

とが多く、学校でも、その場その場に応じた正しい言葉づかいを徹底して指導していきたいと思います。また、学級の中でも「親しき仲にも礼儀あり」の精神を指導していきます。さらには、道徳や日常の学級活動の中で、人を大切にする心を育てていきます。

各ご家庭におかれましても、社会のルールをしっかりと教えることと合わせ、「言葉づかい」の大切さについて、その時々の場面に応じた指導していただきたいと思います。

③ 家庭学習

前期と同様に「改善」領域に属したものの、いくぶんポイントアップの傾向が見られました。とても喜ばしいことです。家庭学習で自己の課題に向き合う時間が多いほど、学力は確実に定着していきます。学校で学んだことを補充し、さらに発展的に学ぶ姿勢が身についてくれれば、将来生きていく上での大きな力となります。

「夜のうちに明日の時間割を整える」このことも家庭学習の内容と考えてもよいのではないでしょうか？親にうるさく言われなくとも自分ですんで学習準備をする子は、宿題や家庭学習もきちんとできるはずです。

ところで、子どもを伸ばす関わり方の1例として、学習した内容を子どもに説明させてみると効果的であると示されています。日々忙しい中ではありますが、ご家庭では是非一度試していただきたい実践例です。



3 学校関係者評価

学校評価アンケート結果を受けて、学校運営協議会理事会の理事の方々から、以下のような意見を頂戴しました。是非、今後の取組に生かしていきたいと思います。

＜家庭学習に関連して＞

- ある中学校で授業開始後の5分間、学習に集中できるような取組を行っている学校がある。本校の子どもたちにもそのような取組を参考に、何かの手立てを工夫してもよいのではないかと考える。
- 放課後学び教室で指導していても、学校のノート指導が徹底されていることがよくわかる。よい取組なので、今後も継続していくべきである。
- 中学校の土曜学習に参加率をみると、あまり良くないと感じている。竹の里小学校の卒業生も多いので、小学校段階から自分かるすんで学習に向かう姿勢を身に付けさせてほしい。
- 家庭学習の話題がでたが、学校での学習を家庭でも丁寧に見てもらえない児童については、学校でも何らかの対策を講じていくべきであると思う。

＜3つの「あ」に関連して＞

- 挨拶も、ファーストフード店で行っているようなマニュアル通りでは役立たない。自分で臨機応変に対応する力が必要だ。
- 小学校段階では、基礎的な学習をしっかりと身に付けさせるべきであるが、それとともに人間として将来生きていくための力も培うべきである。
- 学校や社会のルールが守れなかつたりすることはある。しかし、そのときは、「ゴメンナサイ」が素直に言える子を育ててほしい。
- 竹の里小学校の子たちは、育成学級の子とうまく関わっている。気持ちの優しい子たちが多いように思う。こうした姿を見ると気持ちが良い。